

CONTENTS

編集方針	2
グループ理念／行動指針	3
トップ対談	4

[特集]

1 動き出した環境施策	10
2 環境技術研究所設立	12
3 第5次安全5か年計画「安全ビジョン2013」の策定	14
4 継続する挑戦 お客さま満足の向上	16
5 グループ価値の最大化	18
6 IT・Suicaビジネスの今後	20

[環境]

基本的な考え方と目標	22
グループ全体の環境負荷	23
環境目標と実績	24
地球温暖化防止への取り組み	26
資源循環の取り組み	32
化学物質管理	35
沿線での騒音低減	37
沿線環境の向上	38
生物多様性への取り組み	39
環境技術開発	41
環境マネジメント体制	43
環境コミュニケーション	46
JR東日本エコ活動報告	47
グループ会社の取り組み報告	49
環境会計と経営指標	51

[安全]

究極の安全を目指して	53
安全文化の創造	56
安全マネジメント体制	58
安全設備の整備	59
羽越本線列車事故を受けた対策	63
安全研究開発	65

[社会]

お客さまとのかかわり	67
社会とのかかわり	75
社員とのかかわり	78
信頼を保つために	81
第三者保証報告	85
対談を終えて／今後の展望	86
社会環境活動の歩み	87
会社概要／グループ会社一覧	88
編集後記	89

編集方針

本報告書は、JR東日本グループにおける社会貢献活動について、正確かつ分かりやすくご紹介することを目的として発行しています。

本書では、「特集編」と「詳細編」の2部構成を採用しています。

特集編では、2008年3月31日に発表した「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」を踏まえ、今後の進むべき方向などについて、関係役員からのコミットメントを掲載させていただきました。

また詳細編は、当社グループの社会的責任として特に重要である「環境」「安全」「社会」の3側面から取り組みや考え方をご説明するものとさせていただきます。

今年度については、より多くの方に当社の取り組みを分かりやすくご理解いただくよう、冊子へは特に2008年度に進捗のあった事象などを掲載することとし、経年的な情報などについては、当社のHPへ記載させていただいております。

参照したガイドライン 環境報告ガイドライン(2007年版) [環境省]
環境会計ガイドライン(2005年版) [環境省]

対象期間 2008年4月～2009年3月(実績データに関しては、2008年度を対象期間としましたが、活動内容については一部それ以前のもの、および本書発行直近のものも含んでいます)

対象範囲 JR東日本とJR東日本グループ82社*

* JR東日本とJR東日本グループ82社 2008年度末時点。